

■第9回通常総会を終えて

第9回通常総会は5月30日(金)、東京デザインセンター地下2階「ガレリアホール」にて開催されました。また、通常総会に続き、記念講演会と交流会が開催されました。

通常総会では総合司会の戸矢崎さんの開会の辞のあと、中川会長よりJIPATの事業や活動の他、正会員数の減少などの現状についての報告、また、来年はJIPAT設立10周年を迎え、これからのJIPATのあるべき姿を社会に示すための記念事業を企画している旨の挨拶がありました。

各議案の審議に先立ち、議長選出(石津理事)や書記・議事録署名人選出が行われ、平成14年度のJIPAT全体としての活動や各委員会の活動、収支決算、監査、並びに平成15年度の活動計画、収支予算などの各議案の審議は満場一致で可決承認されました。

また、JIPAT設立10周年記念事業企画、賛助会員の会の活動、日本インテリアプランナー協会協議会(JIPA)の活動、IPEC21-2002及び2003関連などの報告がなされ、参加された会員各位のご協力のもと滞りなく閉会いたしました。

記念講演では岡田 忠氏(メキシコ大学建築学部特別講師・風水分析設計(ジオマンシア・プランナー))をお招きし、「空間生命線としての風水デザイン」と題して講演をして頂きました。

風水思想の仕組みと原理、都市からインテリアまでの風水の相貫線についてなどの理論への導入のお話や、風水都市香港の風水デザイン、マヤ文明から近代デザインへの変遷におけるメキシコ風水デザインについての理論的分析を語って頂きました。さらに、20世紀の巨匠、ル・コルビュジェ、ルイス・バラガン、ノーマン・フォ

スター、I.M.ペイらの建築空間の風水分析など興味深い講演をして頂きました。

交流会では127名の出席のもと、(財)建築技術教育普及センターの山下浩一郎長や(社)日本商環境設計家協会の野村武彦理事長のご挨拶を頂いたのち、各種のワイン&チーズを味わいながら、参加された官庁・関連団体の方々と会員相互で賑やかな交流・親睦の場となりました。

また、ガレリアホール中2階では、JIPATが開催した各セミナーのプロモーションビデオの放映と併せて映像配信システムの紹介、また、賛助会員各社の新商品紹介を行い、好評を得ました。

第9回通常総会・記念講演・交流会は会員各位のご協力のもと、和やかなうちに終了できました。この場をお借りして関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。(総務委員会委員長 濱 弘美)

■国立成育医療センター見学会

「新しいアイデアが一杯のおもちゃ箱」
5月28日 事業委員会

また行きたくなってしまふ、おもちゃ箱のような環境を体感しました。形態的なアイデアだけではなく、そこには、インテリア・プランナーに必要なハートが込められていました。厚生労働省の辻 吉隆課長補佐より施設のミッション、コンセプト・プランニングのお話を拝聴し、その意義と実際に隅々までその心が浸透している素晴らしさを体感させていただき感銘しました。

国立成育医療センターは、胎児から小児、思春期を経て出産に至るまでのリプロダクションサイクルを対象とした総合的かつ継続的な医療「成育医療」の確立を目指して平成14年3月に開設された高度専門医療センター(ナショナルセンター)です。

施設は、「S:先端医療」「C:感染管理」「G:環境配慮」「F:こどもと家族への配慮」の4つのテーマで構成され、その心は利用する人々全てに憲章として趣旨をご理解いただくという、正にインテリアプランナーが目指すことと思いました。

入口等には、Sは黄、Cは青、Gは緑、Fは赤とテーマごとにカラーを決めてロゴサインが計画されており、実例を拝見しながらその計画の素晴らしさを実感しました。

出産には、設備面ではLDR(居室型分娩室/陣痛(Labor)、分娩(Delivery)、回復(Recovery)の頭文字)の考え方を取り入れ、陣痛・分娩から回復までが同じ部屋でできるようになっており、母子への負担の軽減が図られています。また、運用面では、看護師の皆さんを中心にして希望者にアロマや環境音楽を提供するなどの心遣いがなされています。さらに、各種ボランティア(個人、企業など)が参加し、職員だけでは実現できなかった癒しの部分を補完しています。医師団や看護師、職員、ボランティア、利用者・家族が、目的実現のため、皆で「成



育医療」に対し、一丸となって戦っているが感じられました。

インテリアプランナー的なアイデアを紹介すると、ゾーニングは、ホテル的で子供たちと家族の皆さんが生活する「癒しに満ちたゲスト環境」と迅速に処置できる動線重視の「先端医療のハイテク空間」で構成されています。ディテールの部分では、名前の表示を液晶パネルにするなど個人のプライバシーにも細かく配慮がなされています。また、子供部屋(病室)のスツールは、組み合わせで付き添いベッドになり、子供が安心できる、同じ目の高さを配慮した試みが展開され、実際に活用されています。まだ他にも一杯ありますので、参加メンバーよりお伽噺のような物語をお聞きください。

皆さんに伝えたいことは、今までの日本では考えられない要素が実現されているということ。それは、子供たちが好きそうな「おおくらの森を主題としたハートフル・サイン(楽しい造形物)たち」の存在です。彼らは、病気等と戦う子供たちの心を癒す一助になることでしょう。「診療の現場」から「豊かな心で医療に取り組む環境」への変革を体感し、なにか自分も社会に貢献しなければと奮起させられました。

最後になりますが、今回の大切な機会を与えていただいた、センターの三上勝栄専門官はじめ、日建スペースデザイン大西さん、親切に説明いただいたセンターやマクドナルドハウスの皆様に感謝致します。

かげながら、入院している皆さんの体調が良くなることをお祈りしております。

■第2回賛助会員企業訪問

(株)サメジマコーポレーション

会員交流委員会と賛助会員の会で企画された「賛助会員インフォメーションの会—企業訪問」の第2回が7月5日、銀座の「吉水」で行われた。地球環境やシックハウスなどへの関心が高い昨今、エコロジーホテルとして話題となっている「吉水」で開催されるとあって、多くの会員が参加した。

まずはサメジマコーポレーションから、「吉水」に関わることになった経緯と珪藻土についての説明があった。

続いて、「吉水」の女将である中川さんから銀座「吉水」をつくるに至るまでの様々なエピソードや「吉水」を通して伝えたいこと、ご自身の理念などをお伺いした。なかでも興味深かったのは、中川さんの理念である「自然」とは、建築だけでなく、衣食住の全てを含めたものであり、一時的ではなく継続させていくことが重要であるということ。そのために経営、または利益というものがどうあるべきかを考えているというお話であった。この話の中には、建築や空間に関わる私たちへの厳しいご意見もあり、これからのIPとしての姿勢を考えさせられた。

貴重なお話の後、自然素材でできた空間の中で、自然の材料に手を加えずに作った料理をいただいた。空間も料理もとてもやさしい味わいで、心を和ませてくれた。

最後に建物の内部を見学させていただいた。階ごとに仕様が異なり、様々な珪藻土の表情を見ることができ、面白かった。



■会員交流ツアー in 山形

6月7・8日 会員交流委員会

今回の旅は銀山温泉。あのTVやCMでお馴染みの外人女将がいる有名な温泉街です。

東京からは車で約6時間の山形県尾花沢市にあります。こじんまりとした小さな街は山間の奥に向い銀山川の両側に大正・昭和の古き良き時代を思わせる建物が並んでいて車の通行もなく、とても静かです。

そのたまたまはレトロのなかにもモダンの香りがしてとても新鮮でした。温泉に浸かり、地元の美味しい山の幸を食しながら、人々の独特な言葉のリズムに聞き入ると、言葉にはできない「日本人の忘れてしまった心が取り戻せる」そんな街なのです。さて、なんととっても旅の醍醐味は同行

メンバーと旅先での人との出会いです。仕事上ではうかがえない素顔にお会いできるチャンスでもありました。例えば、中川会長の円谷プロダクションで模型制作アルバイト時代のお話やウルトラマンのテーマソングの歌声(美声にうっとり)。志村委員長は自らのインテリアプランニング受賞作品のエピソードをクイズ形式で公表されました(受賞の鍵を握るもうひとりのデザイナーがいた? 等々)。

そして当初から楽しみにしていた、厳選された見学コースは、「天童木工」「山寺風雅の国」「文翔館」「せんだいメディアテーク」と非常に内容の濃いものでJIPATでしか体験&見学できなかったはず。好奇心も満足、味覚も満足の充実した旅に参加できましたことを感謝いたします。



みなさんも是非次回は参加してみてください。今まで以上にJIPATの魅力を堪能できることでしょう。

最後に幹事の村口様、現地ガイド役をしていただいた天童木工の菅沢様・山形IP協会笹原様、宮城・大河内様、賛助会員の方々にはご尽力いただき本当にありがとうございました。(小林美奈子)

■連載 3分間のタイムスリップ①

i&iインテリア総合デザイン室 井上常雄

「今年は、ライト兄弟が初めて飛行に成功(1903・12・17)して丁度100年目になるんだ、その時期私のじい様がイギリスにいて、帰国の時に持って帰った“つづら”を見てくれないか」と、今で言う旅行カバンを見せられた。表は板に平織りの布が貼られ、上からラッカーのような塗料が塗ってあり、銑鉄の帯で補強されている。内側は蓋側にスーツケースによくある内蓋があり、本体の方には“みだれ箱”が一番上に置かれ、それを取外して、物を出し入れすることができる仕組みになっていた。

そのじい様はイギリスで造船の仕事をしていて、仲間も同じこのつづらを使っていて身の回りの品々を入れ、単身赴任にはかかせない品のような感じだったそうだ。

その品を見せられたときチェスト(櫃)とか、カッソーネ(イタリア)をすぐに思い出した。

最近の家具に整理タンスのことをチェストと呼ぶことがあるようだが、正式にはチェストオブドロアーが正式な呼び方である。15世紀、このチェストは壁掛けをはじめ家

財道具、貴重品、書類、衣類などすべての物を収納する重要な家具であった。大型のものはベッドになったり、テーブルとしても使われた。



右の絵のようなドーム型をしたものは雨水を払いのけるためのものであった。

もう少しこのものに触れてみたい。イギリスとフランスは100年戦争に入り、スペインはポルトガルと制海権争いをしていて、互いに隙を見せると戦いがはじまった。

15世紀中ごろになると、イギリスはヨーク家とランカスター家の内輪もめのバラ戦争と呼ばれた30年戦争などが起こった。

チェストは、こうした不安定な社会情勢のなかで必然的に生まれた家具といえる。いざ戦いが始まるとこのチェストを持って逃げればよかった。

当時は侵略されると手当たり次第略奪が行われたようで、100年戦争でフランスに勝利したエドワード3世は馬車に満載した戦利品とともに凱旋し、「イングランドは国じゅう戦利品で溢れ、そのおこぼれの装飾品を身に付けていない女は一人もおらず、

また上等なリネンや祝杯が貰えなかった家は1軒もなかった」ほどだったという。

時代が下がり安定してくると、正面に家紋を入れて嫁入り道具に加えるようになったり、イタリアではカサパンカと呼ばれる、これに背もたれと肘掛けをつけたものを貴族等の寝室に置き、謁見用のいすとして使われるようになった。

一昨年前に封切られたエリザベスの映画を見たとき、ベッドは豪華な天蓋付きであったが、椅子はほとんどなく、そこは高貴な人間だけが座ることを許された場所であった。が同時に、座ることは死を覚悟しなければならなかった。つまり、背後から何者かに短剣で刺されることも考慮に入れて座らなければならなかったようだが、「エリザベスはなんの躊躇もせず座についた」という。他の家臣達は床にそのまま座ったり、寝たようで、椅子もベンチかスツールのものであった。

では、いつ頃から家具が実用的になったのか? 我々インテリアに携わる人間が、最小知りえなければならぬ世界で使われている家具について、この家具はいつの時代に流行したのか、次回から分かりやすく検証してみたい。

■アメリカ住宅視察ツアー'03 SUMMER -Street of Dreams 住宅展にみる アメリカの住宅デザインのトレンド

米国北西部ワシントン州・オレゴン州を訪問して夏季住宅セミナーに参加し、米国の最新建築部材でデザインされた高・中所得層住宅を見学するツアーを開催します。

シアトル、タコマ、ポートランドの3ヶ所の住宅展示会場を視察し、米国木造住宅プ

ロジェクトに採用されるデザイン、ライフスタイル、デコレーティング等のアイデアや建築資材、インテリア設備を視察します。

その他、JIPATからの参加者のために、JIPATならではのオプションツアーも企画しています。日本語資料に加え、通訳付きで生きた情報が入手できる良い機会です。この機会に是非ご参加ください。

詳しい資料と申込用紙はJIPAT事務局に用意していますので、お問合せ下さい。

■日程：8月3日(日)～7日(木) 3泊5日間

■参加費用：275,000円/一人
(お一人様部屋追加料金 70,000円)

■参加申込締切：7月18日(金)

■企画・後援：エバグリーン建築資材貿易振興会/米国ワシントン州政府通商経済開発局日本事務所/東京インテリアプランナー協会

(国際委員会)

■編集後記

2003年度第2号のニューズレターも、JIPATの活発な活動を反映してたくさんの記事を掲載することができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。2004年のJIPAT設立10周年に向け、さらに盛り立てていきたいと思っております。(情報委員会 羽沢昌子)

■情報委員会では、「ニューズレター」「インフォメーション」のeメール配信を行っております。eメールによる配信をご希望される方はお名前、会社名、TEL・FAX番号、メールアドレスをご記入の上、事務局までFAXまたはeメールでお知らせください。

2004年5月29日(予定) JIPAT設立10周年記念大会!